

**高知県における性感染症の実態**  
**(平成19年度まとめ)**

**高知県感染症対策協議会 エイズ・性感染症対策部会**  
**高 知 県 健 康 福 祉 部**

# 目次

## 高知県における性感染症の実態（平成19年度のまとめ）

1	はじめに	1
2	調査方法	1
3	結果	2
	（1）疾患別年間患者数及び罹患率	2
	（2）年齢階級別及び性別患者数	2
	（3）月別患者数	3
	（4）重複感染	4
	（5）疾患別の性別・年齢階級別罹患率	4
	（6）平成14年度・平成15年度・平成18年度調査との比較	6
4	考察	10
5	おわりに	11
	性感染症実態調査要領	13

## 高知県における性感染症の実態（平成19年度まとめ）

### 1 はじめに

本県での性感染症4疾患（性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症）の発生動向は、高知県感染症発生動向調査事業において、産婦人科系3、泌尿器科3計6の定点医療機関で定点把握されている。しかし、研究者や医療関係者及び行政サイドからは、現状の実態把握を求める意見が多く寄せられていることから、平成14年度及び平成15年度に、定点医療機関調査に加え、産婦人科系、泌尿器科・皮膚科系を標榜している県内の全医療機関を対象に平成14年4月から平成16年3月までの2年間に診断された性感染症4疾患の実態調査を実施した。

前回の調査から2年間経過し、①平成14年度及び平成15年度の調査との比較、②「こうちこどもプラン」（高知県次世代育成支援行動計画）<sup>1)</sup>及び「よさこい健康プラン21（第1期）」<sup>2)</sup>の目標（10代の性感染症罹患率）の実態調査、③具体的な県内の数値を県民に提示し予防啓発することを目的として、平成18年度及び平成19年度に同様の実態調査（産婦人科系、泌尿器科・皮膚科系を標榜している県内の全医療機関を対象に平成18年4月から平成20年3月までの2年間に診断された性感染症4疾患の実態調査）を実施した。ここでは平成19年度の調査結果について報告する。

### 2 調査方法

#### (1) 対象と方法

高知県医師会をはじめ医療関係団体の協力のもとに、平成19年4月から平成20年3月までの間、県下146の産婦人科系、泌尿器科・皮膚科系標榜医療機関において、新たに対象の性感染症と診断された患者の調査を実施した。調査様式は、高知県感染症発生動向調査事業で使用している様式とし、性別・年齢階級別・疾患別の数を調査内容とした。医療機関で記入された調査用紙は、1か月ごとに衛生研究所にFAX、郵便又は電子メールで送付され、衛生研究所が集計を行った。

なお、月ごとの報告に当たっては、当該月に該当患者がない場合にも報告することとした。月ごとの集計は、4半期ごとに高知県健康づくり課ホームページに掲載し、経過を確認できるようにした。

#### (2) 対象の性感染症（感染症発生動向調査事業の性感染症定点報告の4疾患）

性器クラミジア感染症  
性器ヘルペスウイルス感染症  
尖圭コンジローマ  
淋菌感染症  
（以下、上記疾患はそれぞれ、クラミジア、ヘルペス、コンジローマ、淋菌と略す。）

表1 年齢・男女別推計人口(平成19年3月31日現在)

	総数	男	女
総数	784,867	369,303	415,564
0～4	29,343	14,929	14,414
5～9	33,192	17,034	16,158
10～14	35,858	18,492	17,366
15～19	36,594	18,359	18,235
20～24	36,803	18,265	18,538
25～29	39,347	19,738	19,609
30～34	49,122	24,630	24,492
35～39	48,593	24,044	24,549
40～44	42,430	20,573	21,857
45～49	46,191	22,700	23,491
50～54	50,443	24,965	25,478
55～59	66,328	32,821	33,507
60～64	57,965	28,029	29,936
65以上	212,658	84,724	127,934

#### (3) 調査対象人口

調査対象人口は、表1のとおり高知県政策企画部統計課発表平成19年3月31日現在の「年齢・男女別推計人口」を使用した。

### 3 結果

#### (1) 疾患別年間患者数及び罹患率

平成19年度年間患者数は、表2のとおり4疾患合計で1,396人であった。

また、県人口10万人当たりの4疾患罹患率は177.9、活動年齢(10-59歳)の人口10万人当たりでは309.0であった。

疾患別では、クラミジアが737人(52.8%)と4疾患中最も多く、ヘルペス、淋菌、コンジローマの順となっていた。報告数上位のクラミジアとヘルペスで全体の78.0%を占めた。

表2-1 疾患別患者数及び罹患率(男女計)

	患者数(人)	患者数割合(%)	人口10万対罹患率	活動年齢人口10万対罹患率
クラミジア	737	52.8	93.9	163.1
ヘルペス	351	25.1	44.7	77.7
コンジローマ	97	7.0	12.4	21.5
淋菌	211	15.1	26.9	46.7
計	1,396	100.0	177.9	309.0

表2-2 疾患別患者数及び罹患率(男性)

	患者数(人)	患者数割合(%)	人口10万対罹患率	活動年齢人口10万対罹患率
クラミジア	141	40.2	38.2	61.0
ヘルペス	47	13.4	12.7	14.7
コンジローマ	31	8.8	8.4	12.0
淋菌	132	37.6	35.7	58.4
計	351	100.0	95.0	146.1

表2-3 疾患別患者数及び罹患率(女性)

	患者数(人)	患者数割合(%)	人口10万対罹患率	活動年齢人口10万対罹患率
クラミジア	596	57.0	143.4	262.4
ヘルペス	304	29.1	73.2	115.4
コンジローマ	66	6.3	15.9	28.6
淋菌	79	7.6	19.0	34.8
計	1,045	100.0	251.5	441.2

#### (2) 年齢階級別及び性別患者数

年齢階級別では、表3のとおり、20-24歳が最も多く、次いで25-29歳、30-34歳の順となっており、20-34歳が全体の58.7%を占めていた。次いで低年齢層の15-19歳が10.8%を占めた。

性別では、本県人口の女/男比は1.1であるが、4疾患全体の患者の女/男比は3.0であり、特に15-24歳で女性の占める割合が高かった。疾患別では、高い順にヘルペス女/男比6.5、クラミジア4.2、コンジローマ2.1、淋菌0.6であり、淋菌で男性優位であった。

表3 年齢階級別・性別累計

疾病名		5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	計
		9	~14	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~70	以上	
クラミジア	男	0	0	17	31	36	10	19	10	5	5	4	3	0	1	141
	女	0	0	97	196	149	77	49	17	4	4	3	0	0	0	596
ヘルペス	男	0	0	2	5	6	1	4	5	3	1	6	4	2	8	47
	女	0	0	10	52	38	31	31	28	22	18	32	13	9	20	304
コンジローマ	男	0	0	3	7	7	4	1	2	0	2	1	1	1	2	31
	女	0	0	12	26	11	8	3	2	1	0	2	0	0	1	66
淋菌	男	0	0	3	19	23	30	18	16	11	5	6	0	0	1	132
	女	0	0	7	29	15	9	6	4	3	4	2	0	0	0	79
合計		0	0	151	365	285	170	131	84	49	39	56	21	12	33	1,396

注：一人の患者が二つ以上の疾病と診断された場合は、診断されたそれぞれの疾病に計上した。

(3) 月別患者数

4月から3月までの月別患者数推移を表4及び図1に示した。

4疾患合計の患者数を月別に見ると、5月、12月、2月には報告数の減少がみられるものの、年間を通じておよそ120件前後の報告数で推移しており、6月にピークがみられた。

また、疾患別ではクラミジアと淋菌が6月にピークを示した。

表4 4疾患患者数月別推移

疾病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
クラミジア	66	42	76	75	73	69	69	61	47	55	44	60	737
ヘルペス	30	19	26	30	25	28	26	41	33	26	30	37	351
コンジローマ	17	14	8	7	10	9	7	3	5	7	7	3	97
淋菌	24	16	32	16	22	19	15	13	10	21	12	11	211
計	137	91	142	128	130	125	117	118	95	109	93	111	1,396

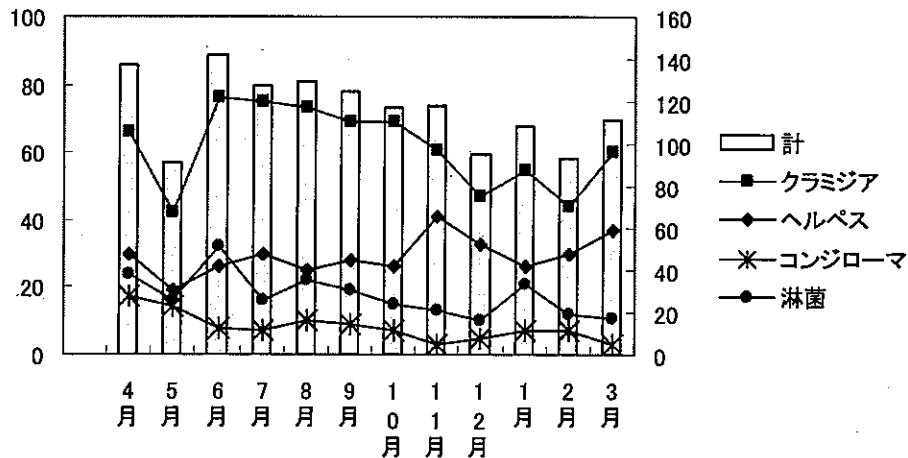


図1 月別推移

(4) 重複感染

重複感染例は、表5のとおり、2疾患重複52例(3.7%)の報告があり、全てにクラミジアが重複していた。1例を除きクラミジア・淋菌の重複感染であった。また、52例中31例(59.1%)は20-29歳であった。

表5 重複感染例

	クラミジア 淋菌	クラミジア ヘルペス	クラミジア コンジローマ	ヘルペス コンジローマ
15-19	6			
20-24	17	1		
25-29	13			
30-34	2			
35-39	7			
40-44	1			
45-49	3			
50-54	1			
55-59				
60-64				
合計	51	1	0	0

(5) 疾患別の性別・年齢階級別罹患率

性感染症4疾患の罹患率は、図2のとおり、全年齢階級で女性優位であった。

男性の罹患率のピークは25-29歳、女性の罹患率のピークは20-24歳であり、女性は男性より5歳早い罹患率の分布を示していた。

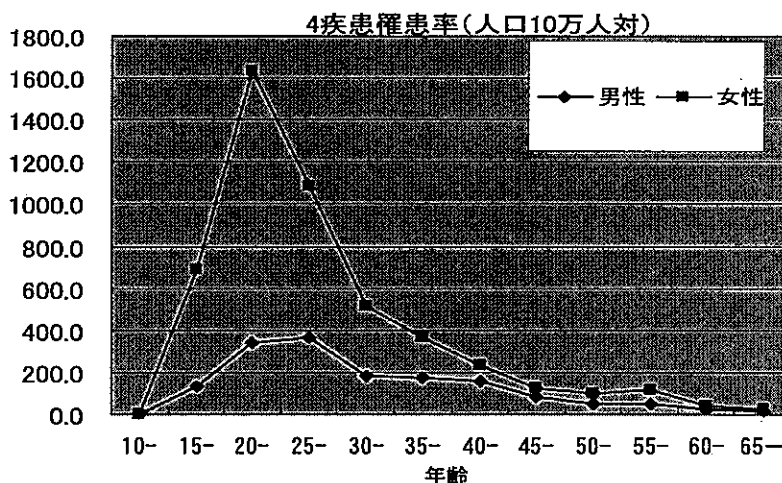


図2 男女別年齢別罹患率

各々の疾患別罹患率を表6、図3及び図4に示した。

クラミジアは、男性では25-29歳に大きなピーク、35-39歳に小さなピークがみられる二峰性を示し、女性では20-24歳にピークをもつ一峰性を示した。また、女/男比は、15-19歳で5.7、20-24歳で6.3、25-29歳で4.1、30-34歳で7.7と女性優位となった。

ヘルペスは、男性ではピークが認められなかったが、女性では20-24歳にピークが認められた。また、15歳以上の全年齢階級で男性に比し女性が高く、特に20-24歳で女/男比10.2と、

最大になっている。また、女性では40歳以上の年齢階級で罹患率が4疾患中最も高くなった。

コンジローマは、女性の20-24歳にピークが認められた。

淋菌は、男性では30-34歳に大きなピーク、40-45歳に小さなピークがみられ二峰性を示し、女性は20-24歳にピークをもつ一峰性を示した。また、全体では男性優位であるが、15-24歳の年齢群において、女性優位となっている。

表6 疾患別・性別・年齢階級別罹患率（人口10万人対）

疾患名		年齢											
		10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-45	46-49	50-54	55-59	60-64	65以上
クラミジア	男	0.0	92.6	169.7	182.4	40.6	79.0	48.6	22.0	20.0	12.2	10.7	1.2
	女	0.0	531.9	1057.3	759.9	314.4	199.6	77.8	17.0	15.7	9.0	0.0	0.0
ヘルペス	男	0.0	10.9	27.4	30.4	4.1	16.6	24.3	13.2	4.0	18.3	14.3	11.8
	女	0.0	54.8	280.5	193.8	126.6	126.3	128.1	93.7	70.6	95.5	43.4	22.7
コンジローマ	男	0.0	16.3	38.3	35.5	16.2	4.2	9.7	0.0	8.0	3.0	3.6	3.5
	女	0.0	65.8	140.3	56.1	32.7	12.2	9.2	4.3	0.0	6.0	0.0	0.8
淋菌	男	0.0	16.3	104.0	116.5	121.8	74.9	77.8	48.5	20.0	18.3	0.0	1.2
	女	0.0	38.4	156.4	76.5	36.7	24.4	18.3	12.8	15.7	6.0	0.0	0.0

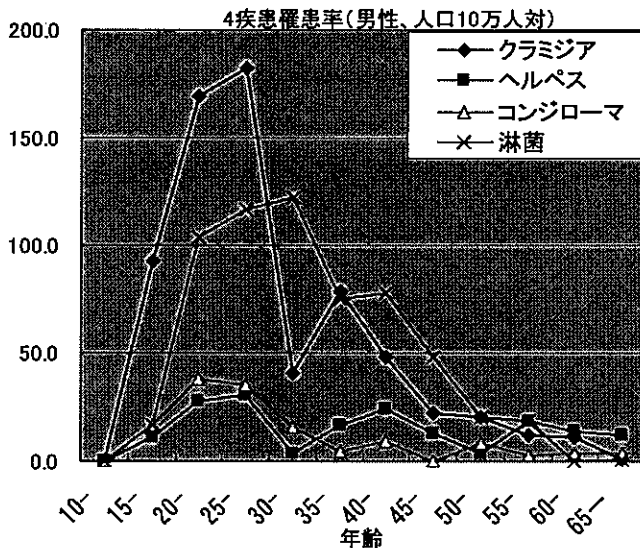


図3 男性の罹患率

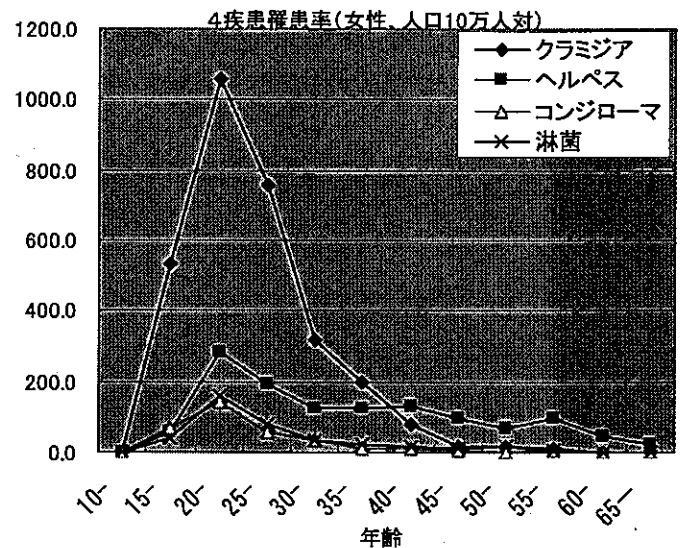


図4 女性の罹患率

以上の調査結果をまとめると以下のとおりであった。

- 4疾患の報告数はクラミジアが最も多く、次いでヘルペスとなっており、2疾患で全体の78.0%を占めた。
- 男性は淋菌で、女性はクラミジア、ヘルペス、コンジローマで優位になっており、女性が全体の74.9%を占め、男性1.0に対し女性3.0となり、性感染症は女性優位である。
- 全報告数の3.7%で重複感染例がみられ、全例がクラミジアとの重複で、52例中51例が淋菌との重複であった。
- 年齢別の罹患のピークは20-24歳で、20-34歳が報告総数の58.7%を占めていた。
- 女性は4疾患とも20-24歳にピークを認め、男性はクラミジアとヘルペスにおいて二峰性となり、男女で罹患の年齢分布に差がみられた。

(6) 平成14年度・平成15年度・平成18年度の性感染症実態調査結果との比較

平成14年度、平成15年度及び平成18年度と今回実施した高知県の性感染症実態調査を比較してみると、報告件数は平成18年度にヘルペス及びコンジローマがやや増加していたが、全体として減少していた。(図5)

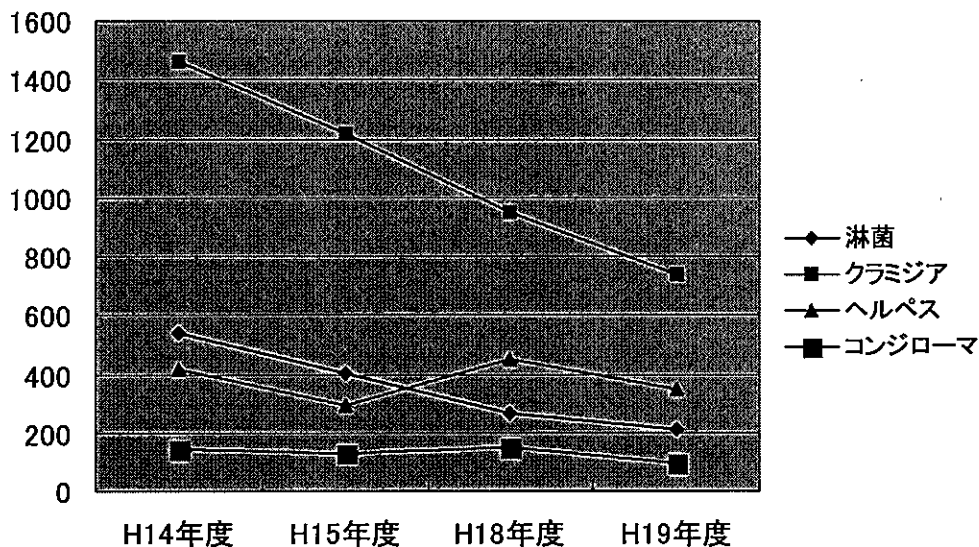


図5 性感染症実態調査の疾患別年間総報告数の推移

感染症法に基づく性感染症4疾患の定点把握調査において全国の定点あたりの報告数は、平成14年以降、平成19年まで全ての疾患で減少している。高知県の定点把握調査においても平成18年まで全国と同様に減少していたが、平成19年度はクラミジア、淋菌においてやや増加がみられた。(図6、7)

定点あたりの報告数の推移(全国)

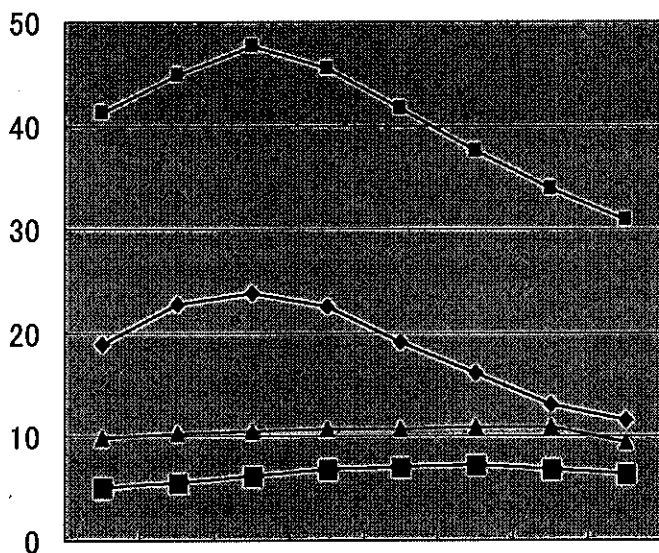


図6 性感染症の定点把握調査結果(全国)

定点あたりの報告数の推移(高知県)

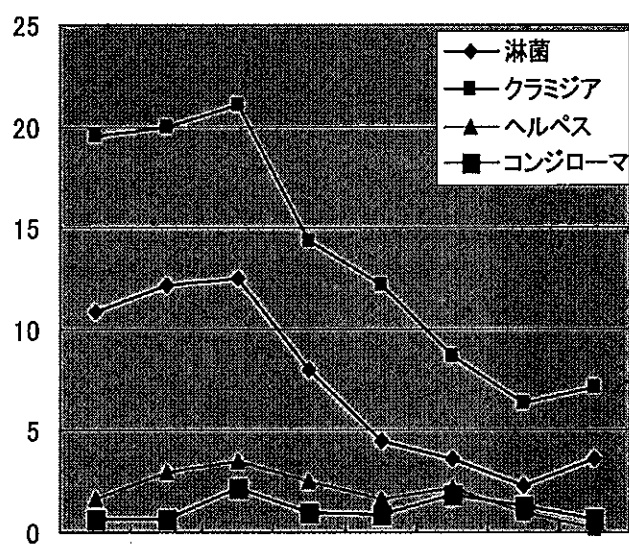


図7 性感染症の定点把握調査結果(高知県)

表7に、図8から図13より読み取れる性別・疾患別・年齢階級別の罹患率の(増加又は減少の)



傾向についてまとめた。

表7 性感染症罹患率の傾向のまとめ

感染症4疾患 (図8・図9)		
	男性	女性
	・ 20-39歳で↓	・ 15-49歳で↓ (特に20-24歳で↓↓)
クラミジア (図10)		
	男性	女性
	・ 15-19歳で↑ ・ 20-39歳で↓	・ 15-44歳で↓ (特に20-24歳で↓↓)
ヘルペス (図11)		
	男性	女性
	・ 15-59歳で↓ ・ 60歳以上で↑	・ 15-39歳で↓ (特に20-24歳で↓↓) ・ 40-44歳で↑ ・ 50-59歳で↑
コンジローマ (図12)		
	男性	女性
	・ 15-19歳で↑ ・ 20歳以上で↓	・ 15-49歳で↓ (特に20-24歳で↓↓)
淋菌 (図13)		
	男性	女性
	・ 15-39歳で↓ ・ 40-49歳で↑	・ 15-24歳で↓ ・ 25歳以上で↑

※ ↓ (↑) : 減少 (増加) 傾向、  
↓↓ (↑↑) : 大幅な減少 (増加) 傾向

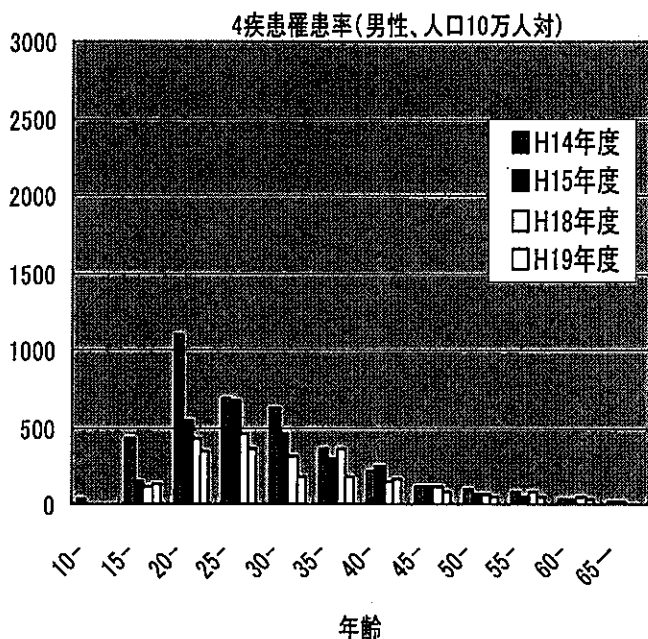


図8 罹患率 (男性) の推移

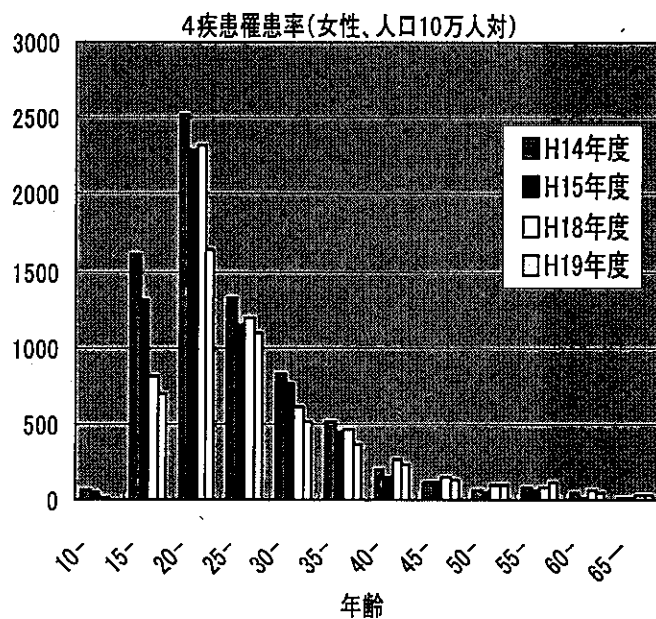


図9 罹患率 (女性) の推移

クラミジア罹患率(男性、人口10万人対)

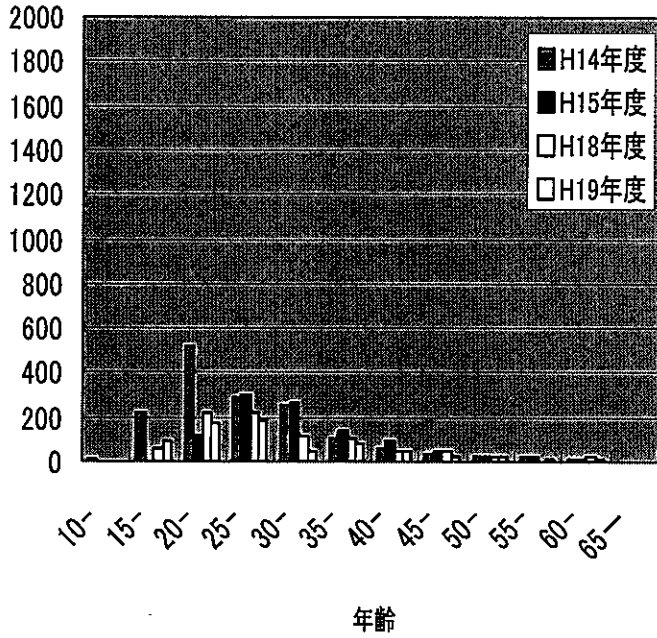


図10-1 クラミジア罹患率(男性)の推移

クラミジア罹患率(女性、人口10万人対)

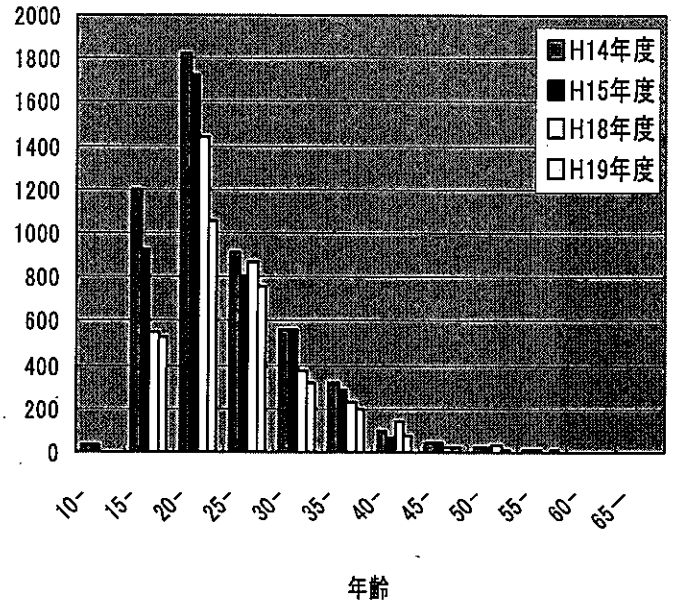


図10-2 クラミジア罹患率(女性)の推移

ヘルペス罹患率(男性、人口10万人対)

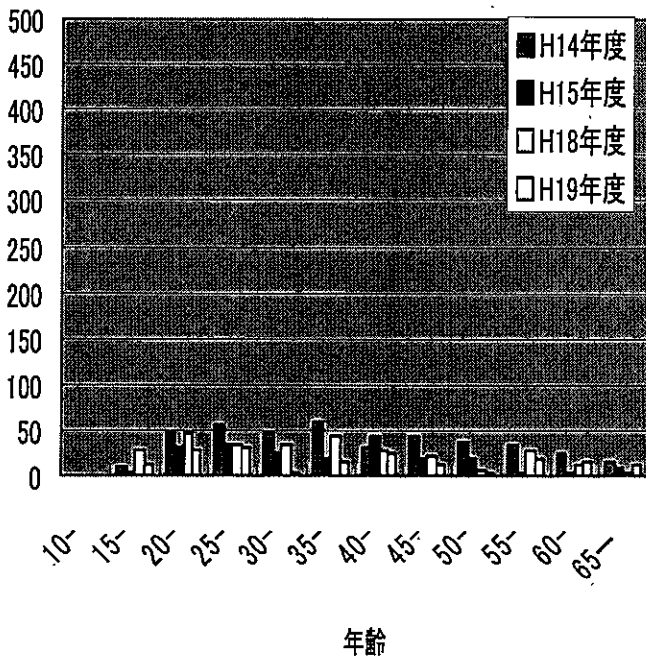


図11-1 ヘルペス罹患率(男性)の推移

ヘルペス罹患率(女性、人口10万人対)

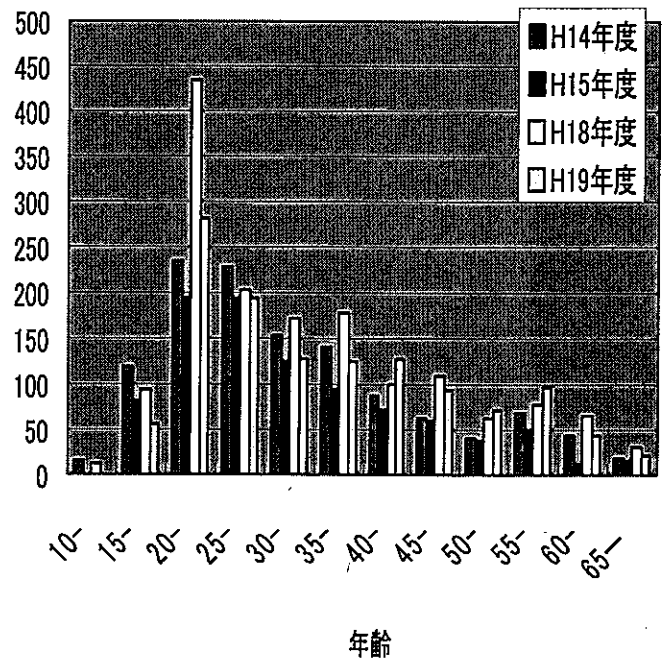


図11-2 ヘルペス罹患率(女性)の推移

コンジローマ患率(男性、人口10万人対)

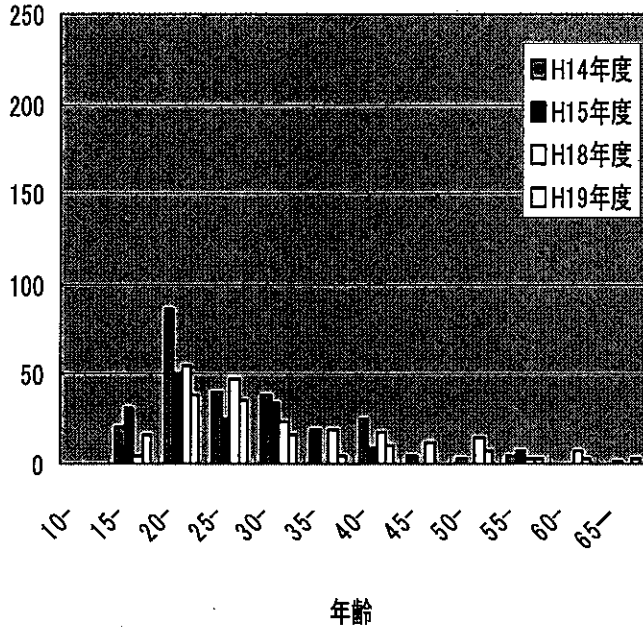


図12-1 コンジローマ罹患率(男性)の推移

コンジローマ患率(女性、人口10万人対)

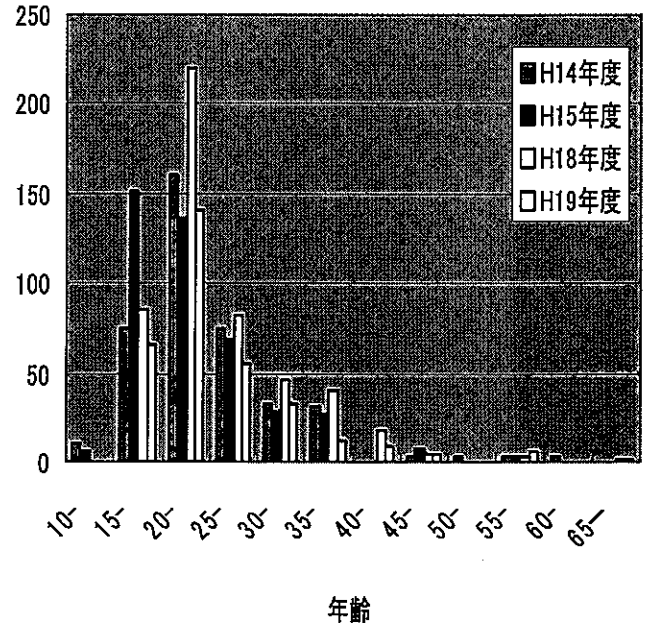


図12-2 コンジローマ罹患率(女性)の推移

淋菌罹患率(男性、人口10万人対)

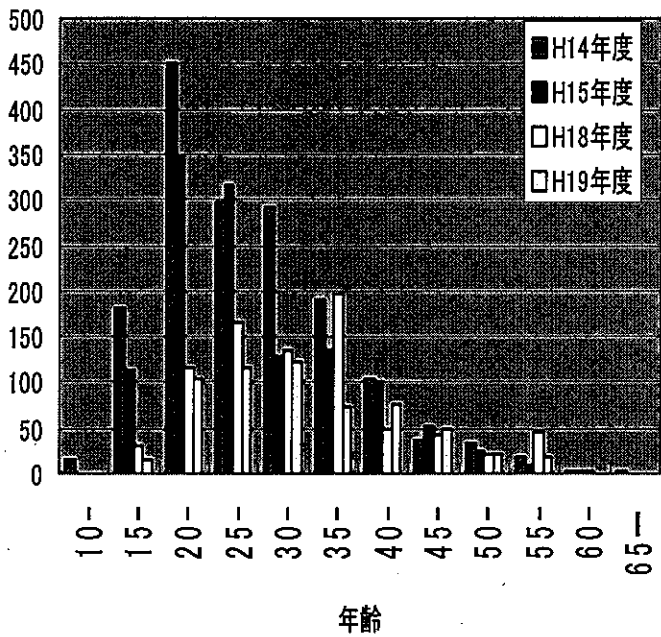


図13-1 淋菌罹患率(男性)の推移

淋菌罹患率(女性、人口10万人対)

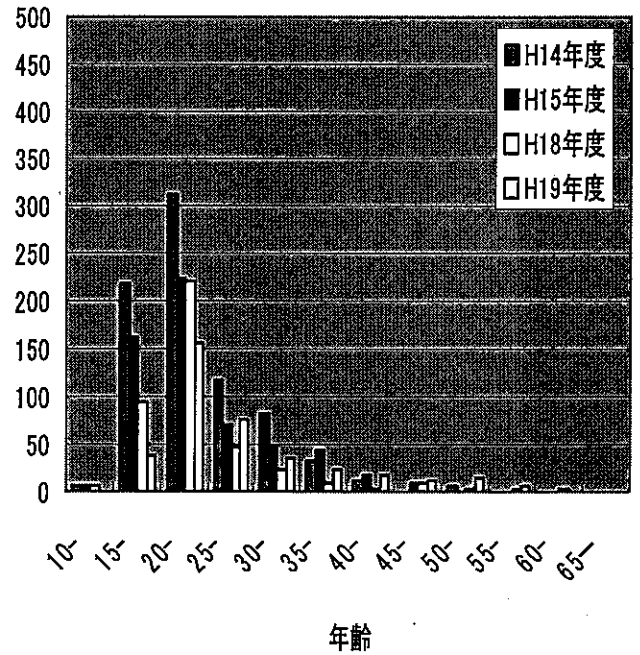


図13-2 淋菌罹患率(女性)の推移

#### 4 考察

本調査は、平成14年度、平成15年度及び平成18年度に続く4度目の高知県の性感染症全数把握調査である。

平成19年度の調査については、4疾患の罹患率は性行動の活発な20歳代が高くなっており、低年齢層である15-19歳がこれに次いでいること、また、男性に比べて女性が優位になっていたことから、性感染症は女性の若者間でまん延していると考えられる。今回の最も高かった年齢群をみると、女性では20-24歳で61.2人に1人、男性では25-29歳で274.1人に1人が1年間に4疾患のうち何らかの性感染症に罹患し、受診したこととなる。

疾患別では、クラミジアは4疾患中に占める割合が最も多い疾患であり、若年層において顕著に女性優位となっていた。最も高い罹患率を示す20-24歳女性では、1年間で94.6人に1人が有症状クラミジアで受診していたことになる。クラミジアの症状の出るのは感染例の1/5で、残りの4/5は無症状との調査結果<sup>3)</sup>もあり、この報告に基づくと20-24歳女性18.9人に1人、同様に25-29歳女性で26.3人に1人、15-19歳女性で37.6人に1人の感染例(潜在感染例を含む)が推定され、クラミジアは女性で最も重要な性感染症であることが示唆される。

ヘルペスは4疾患中2番目に多く報告された。女性においては4疾患報告数の約3割を占めており、15歳以上の全年齢階級で男性より多かった。また、女性の40歳以上の年齢階級で報告数が4疾患中最も多くなっているが、これはヘルペスの再発による受診も含まれるためと考えられる。しかし、20-24歳の年齢階級で圧倒的な女性優位となっており、クラミジアに次いで女性においては重要な性感染症であることが示唆される。

淋菌は4疾患中3番目の報告数であるが、男性ではクラミジアと並んで多い疾患で、4疾患中唯一男性優位となっているが、15-24歳の年齢群においては女性が優位であり、若年層については今後の動向に注意が必要と考えられる。

性感染症全数把握調査は、平成14年の調査以降全国調査の報告がないため全国との比較が不可能である。そのため今回の調査を過去3回の調査と比較すると、4疾患の報告総数は平成14年度より減少していた。平成19年度は報告数の最も多いクラミジアが平成14年度の約半数になったことも一因としてあるが、活動年齢における罹患率は、クラミジア、淋菌、コンジローマで減少していた。特に淋菌は平成14年度の4割近くまで減少していた。その一方で、ヘルペスは平成14年度と比べると若干増加していた。感染症法に基づく性感染症4疾患の定点把握調査においては、全国と同様、高知県においてもクラミジア及び淋菌が多かったが、本調査では平成18年度からクラミジアに次いでヘルペスが多くなっており、定点把握調査とのちがいがみられた。

年齢別にみると、女性は平成14年度より一貫して、ピークが20-24歳にあり20代が中心となっているが、男性は平成14年度から比べると5歳ほどピークが高年齢側に移行した状態になっている。

疾患別では、ヘルペスの40-59歳女性が平成14年度に比して増加傾向にあり、平成19年度は報告総数の1/4を占めるようになった。

重複感染は、平成18年度を除いて約3%にみられ、そのほとんどにクラミジアの感染が認められた。過去の調査では4疾患の様々な組合せがみられたが、今回の調査ではクラミジアと淋菌、クラミジアと

ヘルペスの2パターンしかみられなかった。特にクラミジアと淋菌のパターンが52例中51例を占めていた。また、10～20代の若い年齢層の占める割合が多く、若者の無防備な性行動が窺えた。

患者発生の季節的变化は、過去3回の調査ほどピークは顕著にみられなかったが、同様の傾向がみられた。

人口10万人に対する罹患率は、疾患別、年齢別等では個々の差はみられるものの、全体的にみると平成14年度316.0、平成15年度252.8であったが、平成18年度229.2、平成19年度177.9となり、平成14年に比べて約6割まで減少している。

高知県では平成14年度の調査結果に基づき、県内の実状を盛り込んだ生徒・教師用指導冊子及びCDR等を作成し、県内の全中学校・高等学校に配布すると共に教育委員会と連携し出前授業や養護教諭への伝達講習会等を開催し、教育現場への積極的な介入を実施してきた。また、教育委員会も独自の性教育の手引書<sup>4)</sup>を作成し、エイズ教育を含めた性教育を実践してきた。更に、平成15年度には若者が性行動や性感染症について適切な知識を持ち、その知識を意識・行動に結びつけることを目標として思春期相談センターPRINKを開設し、関係者だけでなく、社会全体でこの問題について、共に考える環境づくりに努めてきた。

このことは、平成14年度568.9であった10代の4疾患の罹患率が、平成19年度には208.4まで減少し、6割減となったことに、少なからず寄与したものと考えられる。併せて、このことは、「こうちこどもプラン」及び「よさこい健康プラン21（第1期）」の目標である「減少させる」ということは一定達することができたと考えられる。

しかし、性感染症4疾患の罹患率は平成14年をピークとして減少していったものの、15-19歳のクラミジアは20代に次いで高く、また各年齢層で減少しているクラミジアが15-19歳男性では増加しており、十代への啓発は今後も継続していく必要がある。更に女性の20-24歳は4疾患全てのピークがあり、他の年齢階級に比して罹患率も高いため、この年代にも新たに啓発が必要である。

高知県では、この報告結果を踏まえ、今までの取り組みを検証し、なおいっそう保健医療関係者、学校関係者だけでなく、家庭で、地域で、仲間同士で、同じ土俵に立ちそれぞれの責任を自覚し、避妊、性感染症、エイズや相手のことを思いやる性行動について考え、話し合うことが不可欠である。そうすることによって性行動が変容し性感染症が減少することを期待する。

## 5 おわりに

高知県における性感染症の実態を報告した。報告された性感染症（4疾患）総数は、1,396人で人口10万対罹患率177.9であった。

調査の実施に御協力を頂いた高知県医師会及びその他の関係機関に深く感謝いたします。

## 文献

- 1) 高知県教育委員会事務局こども課：こうちこどもプラン 高知県次世代育成支援行動計画：94、2005.

- 2) 高知県版「健康日本21」策定委員会：よさこい健康プラン21（第1期）：36, 2001.
- 3) 熊本悦明：日本の性感染症流行の現状：性感染症／HIV感染 その現状と検査・診断・治療：18-36：(株)メジカルビュー社. 東京, 2001.
- 4) 高知県教育委員会：いきいき心と体の性教育—人間としての在り方・生き方について考える—, 2005.